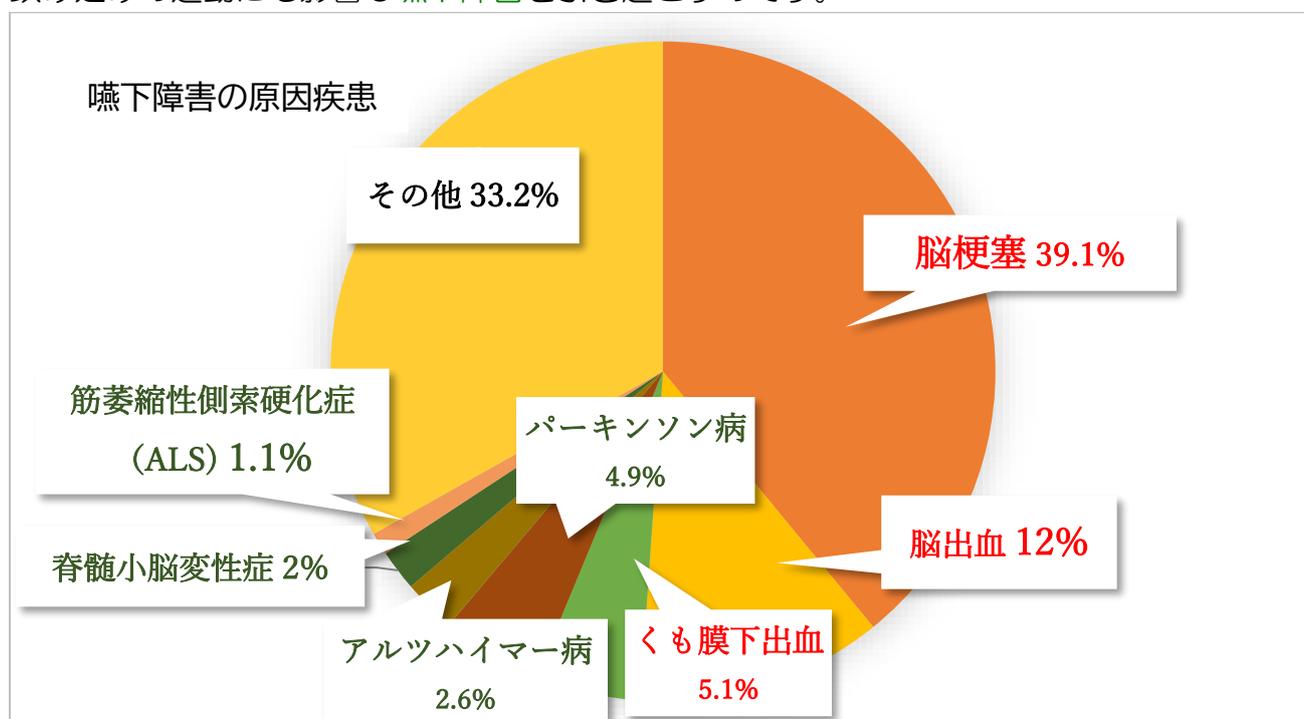


チームごっくんニューズレター

神経疾患と嚥下障害

食物を飲み込む運動には体の筋肉の集団が 30 以上関わっています。その筋肉の集団が 0.5 秒以内に正確な一連の流れを行うことで飲み込みの運動が成立しています。その高度な飲み込みのシステムを**脳の延髄**という場所が担当しています。また、**神経疾患**とは脳や脊髄、神経が侵される病気のことをいいます。神経疾患は脳神経系に影響を及ぼすため、必然的に飲み込みの運動にも影響し**嚥下障害**を引き起こすのです。



上の図のように**脳血管に関する疾患**は全体の約 **55%**を占めています。続いて、神経変性疾患のパーキンソン病、アルツハイマー病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症があり嚥下障害には神経疾患の割合がとても大きいです。

神経変性疾患が原因の嚥下障害は疾患を治療することで回復に向かうことがあります。多発性硬化症、重症筋無力症による嚥下障害は迅速な治療と再発予防薬が大切です。

精神疾患がある場合にも体が思うように動きにくく感じたり、食欲が落ちたり、飲んでいて大切なお薬の副作用で食物が飲み込みにくく感じることがあります。治療の方法について医師と話し合い、歯科医師や精神科スタッフ・リハビリスタッフに相談することが必要不可欠です。